

「太平洋戦争で無念の死を遂げた

## 韓国人の魂を慰めたい」

日本人俳優黒田氏 祈念碑推進

「太平洋戦争で犠牲になった韓国人の魂を慰めたい。韓国人の皆さん、力を貸してください」

日本の有名俳優であり、代表的な知韓派として知られる黒田福美(52)氏は、26日ソウル瑞草洞のとあるレストランで記者と面談し「(韓国人)帰郷祈念碑建立実行委員会」の事業が暗礁に乗り上げていることに無念さをにじませた。

黒田氏は1978年にデビューし、タレント、映画俳優、リポーターとして活躍し、2002年韓日ワールドカップ日本組織委員会理事もつとめた。

韓国語に堪能な黒田氏は「17年前のある日、夢の中に青年が現れて『私は朝鮮人でありながら太平洋戦争で日本名で死んだ』、その無念を晴らして欲しいと語った」とし、「その夢があまりにも生々しく調査を続けながら祈念碑の建立を決意した」と祈念碑建立事業のきっかけを語った。

17年前の夢に朝鮮人犠牲者が現れた

一部団体の反対によって暗礁に・・・助けを訴える

黒田氏はカミカゼ関連の資料を全て調査したのち、その青年が慶南泗川市出身、25才で日本自殺特攻隊に入隊してのち、沖縄海上で戦死した卓庚鉉氏だと確信するにいたった。

その後、韓国人犠牲者の身元調査を続けるホン・ジョンピル前明知大学教授の助力を得て、昨年泗川市側に慰霊碑建立の主旨を伝えた。泗川市も敷地を提供するなど快くそれに協力し、今月はじめ祈念碑が建てられ、去る10日に除幕式が開催される予定であった。ところが光復会と泗川進歩連合など、一部の市民・社会団体会員などが「卓氏は日本の為に命を捨てた、反民族行為者である」として現場に立てこもりをした結果、除幕式の行事は中止せざるを得なくなった。

黒田氏は「遠くから慰霊碑に向かい、黙祷を捧げて日本に帰った」とし、「三日後に祈念碑が撤去されたと聞いて、断腸の思いだ」と語った。彼女は「祈念碑は卓さん一人の為ではなく、太平洋戦争で犠牲になった全ての韓国人の皆さんを慰霊するもの」であり、「日本ではこの祈念碑が韓日両国の未来の変える契機になると期待している。韓国の皆さんもより広い心をもって戦争犠牲者の御霊を慰霊して下さったらと思う」と切実な願いを語った。